




CONTENTS

- 03 新棟完成：中京病院
- 04 **トピックス**
第10回JCHO地域医療総合医学会
- 06  JCHO・かえるチャレンジ！
千葉病院
東京山手メディカルセンター
星ヶ丘医療センター
星ヶ丘医療センター
佐賀中部病院
熊本総合病院
- 12 **特集** 病院・施設紹介
地域関係セミナー：船橋中央病院
地域交流・イベント：山梨病院
- 14 女性医師キャリア紹介
JCHO 認定キャリアアドバイザー
- 15 地域包括ケア
JCHOで育成する総合診療医

理事長・病院訪問記



宮崎江南病院 創立70周年記念式典
JCHO移行11年 記念講演会



人吉医療センター
薬師寺 病院長

人吉市役所
松岡 市長

JCHO
山本 理事長

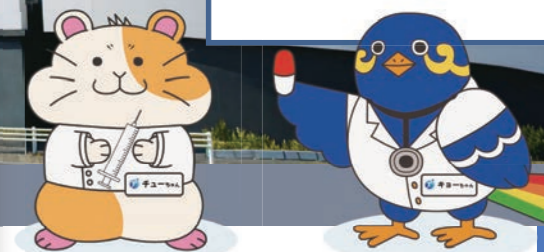
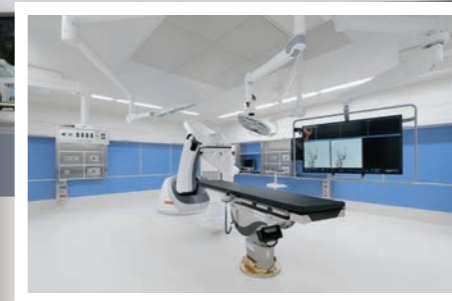
人吉市役所に表敬訪問

新病棟完成！中京病院 2026年1月運用開始



新棟東館の整備方針

- ① 機能集約による運営の効率化と連携強化
- ② 大災害時に機能を維持できるBCP病院
- ③ がん診療機能・地域支援機能の充実
- ④ 患者に快適でスタッフが働きやすい環境
- ⑤ 感染症への対応



事務部長 **岡本 勝男**

新棟東館が2025年10月に完成し、2026年1月から運用を開始いたしました。
新棟東館の病床数は400床、救命救急センター・手術室・ICUなど高度急性期・急性期機能を集約するとともに、免震構造・水害対策など大規模災害時でも機能を維持できる建物になっています。
新棟東館の機能を十分に発揮し、地域の皆様に安心・安全で高度な医療を提供し、地域の基幹病院として地域の医療を支え続けられるよう職員一丸となって取り組んでいきます。

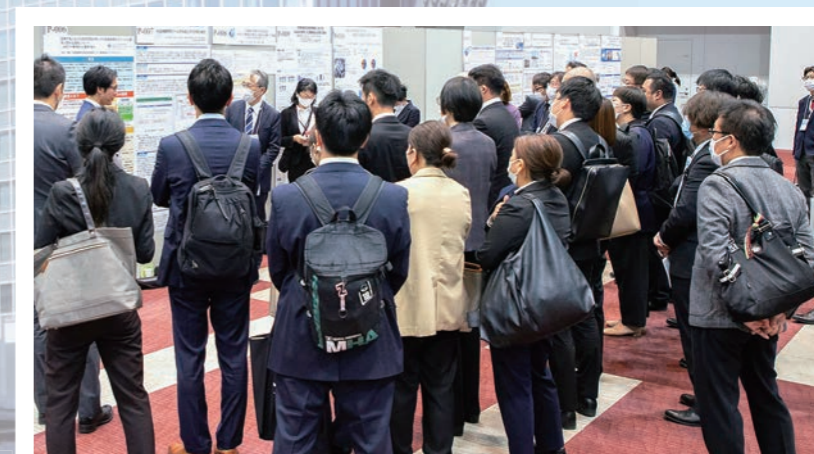


第10回JCHO地域医療総合医学会

The 10th Annual Meeting of Japan Community Healthcare Society in YOKOHAMA

第10回 JCHO 地域医療総合医学会 会長
東京新宿メディカルセンター 病院長 関根 信夫

『次世代地域医療の創造～我がが、明日から～』をメインテーマに、2025年11月28日・29日、第10回の記念大会となる本会をパシフィコ横浜ノースにおいて開催しました。少子・超高齢化の進む我が国にあって、私たち医療者が様々な創意工夫やツールの活用を通して地域医療を担っていこう、との決意表明でもあるテーマに沿った企画構成です。全国JCHO施設から数々の‘創造的’な発表が寄せられ、参加者・演題とも歴代最多数を記録。井上康生氏の特別講演、伊藤亜紗教授の市民公開講座に加え、開会式でのヴァイオリン演奏や懇親会での全員参加の阿波踊りなど、スポーツも、アートも、そして祭りもある会となりました。



第11回 The 11th Annual Meeting of Japan Community Healthcare Society
JCHO地域医療総合医学会
 あしたのしせい+

会期 2026. 10/9 (金)・10 (土)
 会場 大阪国際会議場 〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島5-3-51

第11回は、大阪！！
 多数の職員参加をお待ちしています！

千葉病院

東京山手メディカルセンター



職場チームによる業務改善事例

職場チームによる業務改善事例

最優秀賞

ドック新時代へ向けて“かわる”のは今!

チーム名 JCHO千葉病院 健康管理センター

今回の取り組みは、健康管理センターの収益回復のため、巡回健診におけるお水配布や健診精密外来開設などを行い、成果を上げることができました。これらは、特別に他と一線を画するものではなく、業務改善の必要性を認識し、継続を意識した工夫を重ねることで、どの病院でも取り入れられる「小さなアイデアを形にする取り組み」を積み上げてきたものです。

今後も、病院経営における健康管理センターの役割にご理解を賜り、病院全体で新たな挑戦に向けた思いを共有していければと考えております。

成功に導いた4つの工夫

- | | |
|---|--|
| 1 「常に」業務改善
・同じことの連続では右肩下がり
・筋肉痛が起る程度の負荷 | 2 みんなを巻き込む
・目標を広く、伝わる形で周知
・関係者へのこまめな情報共有 |
| 3 改善見える化
・改善事項一覧作成
・目的で分類 | 4 効果検証
・新規取り組み必ず効果検証
・結果を周知し意識改革へ |

病院長より 素晴らしい賞を光栄に存じます。健診は機構理念である地域健康増進活動であり、経営を支える重要部門であります。「本気で健診」のスローガンのもと、ドックを中心にさらに強力で体制の充実を図ってまいります。

※ポータルサイト広報掲示板内へ掲載

優秀賞

タスク・シフトで紡ぐ手術室 ～臨床工学技士活用法～

チーム名 臨床工学技士活用タスクフォース

手術室看護師の人員不足という課題解決のため、看護師からレクチャーを受けながらマニュアル等の整備をし、私達は肛門疾患手術における臨床工学技士の「器械出し」や「周辺補助業務」への参入に取り組みました。

マニュアル作成や多職種連携での指導により、月約160時間の看護師業務削減、看護師の後進育成とコア業務に注力できる環境整備に貢献しています。これからも多職種が一丸となって手術室を支えていきます。

ほぼすべての手術日でCEが器械出し&周辺補助業務に従事
月160時間程度(平日8~12時)の
看護師2人分の業務削減

看護師2名体制で
スピードUP!

管理職としての
時間を確保!

緊急手術
対応可能

看護師1人1
遵守

CE(臨床工学技士)
目録からの提案

病院長より 外科医や看護職員の確保が難しい中、臨床工学技士が手術支援に進出した意義は大きく、今後の人員確保やコストを考える上で貴重な示唆を与える取り組みです。今後の発展に期待します。

※ポータルサイト広報掲示板内へ掲載

星ヶ丘医療センター

星ヶ丘医療センター



職場チームによる業務改善事例

職場チームによる業務改善事例

優秀賞

休日開院で地域と病院を元気にする

チーム名 地域のために開院しMonday!

「このままではいけない」という切実な危機感を原動力に、当院は前例のない「休日開院」に挑みました。部門や職種の壁を越えた協働を重ね、山積する課題を乗り越えた結果、経営改善のみならず、救急対応力の向上という形で確かな地域貢献を実現することができました。そして何よりも、この挑戦は職員の間には確かな連帯感と誇りを生みました。今後も、地域医療に貢献し、職員がやりがいを感じられるよう、持続可能な医療の在り方を追求してまいります。

ハッピーマンデーを中心に、休日開院をやってみよう!

地域貢献と経営改善の両立を目指す



病院長より 「休日開院で地域と病院を元気にする」病気には休日祭日もない、との気持ちを全職員で共有して休日開院を達成しました。地域に本当に必要とされる病院を目指してこれからも邁進していきます。

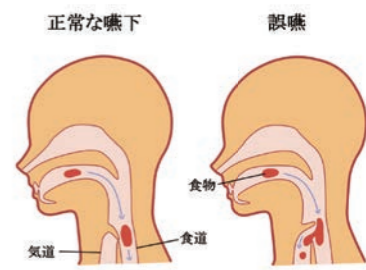
※ポータルサイト広報掲示板内へ掲載

優秀賞

摂食機能療法に係る職場チームの活動

チーム名 嚥下の星

星ヶ丘医療センターの嚥下チームは設立10年を迎えました。多職種協働を深化させた結果、摂食機能療法の算定件数が増加しただけでなく、臨床的な大きな成果を達成しました。誤嚥性肺炎発症率の低減、経口摂取移行率の上昇を実現し、患者さんの回復支援を強力に推進し、さらに院内だけでなく、嚥下外来の設立により地域医療にも貢献しています。患者さんの「食べたい」思いに寄り添いながら、今後もチーム一丸となり、摂食嚥下障害医療の質向上に努めてまいります。



病院長より 電子カルテ上でテンプレートを作成して算定漏れを防いだけでなく、院内誤嚥性肺炎の減少、経口摂取移行率の増加をも達成しました。まさに「嚥下の星」、「病院の星」の仕事ではありませんか。

※ポータルサイト広報掲示板内へ掲載



佐賀中部病院



職場チームによる業務改善事例



熊本総合病院



職場チームによる業務改善事例

優秀賞

救急車受け入れ台数増加への取り組みについて

チーム名 佐賀中部の救急車を増やし隊

当院は、「佐賀中部の救急車増やし隊」を結成し、「三次救急を疲弊させない」をスローガンに救急車受け入れ件数の増加に向けた取り組みを開始しました。救急ホットラインの増設や応需体制の見直しなど、スタッフの救急医療に対する意識向上を図る施策を中心に、体制強化を進めてきました。その結果、救急車件数は約500件から1700件を超えるまでに増加しました。忙しい日々ではありますが、地域に信頼され貢献できる病院として前進し続けてまいります。

救急を受け入れる! という意識改革に大きな効果があった



病院長より 病院再建の3本柱(救急医療・病床管理・地域連携)の一つを、多職種連携と多彩なアイデアで見事に活性化させたことは本当に素晴らしいと思います。救急車応需2000台を目指して、更なる頑張りを期待します。

※ポータルサイト広報掲示板内へ掲載

優秀ポスター賞

「ジェイ太郎」に「ジェイ次郎」を融合した新しいITシステムによる多職種業務改善

チーム名 ジェイ兄弟イノベーションチーム

熊本総合病院では、医師・看護師・技師・事務職員など多職種の円滑な業務活動を支援するため、ITを活用した業務改善活動に取り組んでいます。病床管理補助システム「ジェイ太郎」と院内業務改善システム「ジェイ次郎」を融合させたジェイ兄弟が高度な医療の提供や院内業務の質向上につながる仕組みを確立しました。これらの取り組みにより、新たな改善テーマが自然と生まれる好循環が形成されています。

今後は、これらの基盤を活かし、業務改善の取り組みをさらに発展させるよう、AIシステム等を用いた次世代の業務支援・改善を図ってまいります。

病院長より 現場の声を起点に、「ジェイ太郎」に「ジェイ次郎」を融合させたジェイ兄弟基盤が、院内業務改善にもたらした多大な貢献を高く評価しています。ITを単なるツールにとどめるのではなく、課題が集まり、次の改善につながる仕組みとして定着しており、今後のさらなる発展を期待しています。

※ポータルサイト広報掲示板内へ掲載

ITによる業務改善のプロセス

- 発題** 現場の課題をコアメンバーが拾い上げる
・ITによって解決できることを考える
- 分析** 困っている業務内容、解決のために必要な情報を収集する
・コアメンバー+現場スタッフの解決チームを立ち上げる
- 提案** 解決チームで解決手段を検討し、提案する
・ツールやシステムを開発する場合は、仕様を現場と合意する
- 運用** 病床管理に関するシステム → ジェイ太郎に組み込み
・病床管理以外に関するシステム → ジェイ次郎に組み込み
・作成したシステムまたは改善策を現場に適用。使い方など説明、定着を図る。

地域連携
セミナー

船橋中央病院

地域のハブを目指して臨床遺伝科を立ち上げました

臨床遺伝科 院長補佐 市川 智彦



地域交流
イベント

山梨病院

一次救命処置体験@甲府えびす講祭り

健康管理センター 管理課 小柳 友快



地域医療連携セミナー 臨床遺伝科 @船橋中央病院



- 日時 2026年 1月14日 (水) 18:00~
 - 会場 船橋中央病院 3階 第2会議室から Zoom配信
 - 対象 医師、歯科医師、看護師、遺伝カウンセラー、薬剤師、臨床検査技師、MSW、がんゲノムコーディネーターなど医療従事者
 - 講演Ⅰ (15分)
講師：宇津野恵美 先生
『テーマ：遺伝カウンセリングについて』
 - 講演Ⅱ (30分)
講師：市川智彦 先生
『テーマ：遺伝学的検査と保険適応』
- 2025年度 臨床遺伝科 地域医療連携セミナーは、全3回開催予定です。
①1月14日(水) ②2月19日(木) ③3月11日(水)
(各開催日とも18:00開催となります)
各回のテーマが決定いたしましたら、ご案内いたします。



「臨床遺伝科」を開設し2025年9月1日に院外向けサイトを公開しました。
船橋中央病院の臨床遺伝科はNIPT（非侵襲性出生前遺伝学的検査）などの生殖・周産期の他、腫瘍、成人期、小児期の4領域全てに対応しています。専門経験豊かな3名のスタッフ（栗林ももこ医長、宇津野恵美認定遺伝カウンセラー、市川智彦）がチームを組んで遺伝カウンセリングを行い、遺伝学的検査を実施しています。

地域医療連携セミナーによる情報の提供も行っており、遺伝医療を通じた地域のハブを目指して積極的に活動していきます。ご期待ください!!



山梨病院は、地域交流・広報活動の一環として、毎年11月23日に甲府駅を中心に開催される「えびす講祭り」に参加しています。病院から程近い商店街も歩行者天国となり、今年は1次救命処置体験（AED・心臓マッサージ）、健康相談などを実施しました。

心臓マッサージの体験では、小さなお子様連れのご家族に多くお立ち寄りいただき、懸命に心臓マッサージをする子供たちを見て、応援したり写真を撮ったりと大変盛況しました。今後も地域の皆様のための病院として親しんでいただけるよう、活動して参ります。

私が医療安全部長だって! ほんとうに

女性医師キャリア紹介

相模野病院 副院長

医療安全管理部長 乳腺外科診療部長 **林 京子**



1989年卒、外科14人中1人女外科医として入局しました。子供は2人、気づくと乳腺外科医になっていました。追突事故4回の後遺症で手が動かないつらい時期がありましたが復帰し、2012年相模野病院に乳腺外科医として赴任しました。

2019年に医療安全部長を提案され「医療安全なんてとんでもない」と不承不承受諾しました。

医療事故は些細なこと積み重ねが大きな事故を生む、普通こんなことしないよね。ということが起こる驚きの連続でした。医療安全の根幹はコミュニケーションで挨拶をきちんとできる人は自然と周囲のスタッフに守られている。皆さんもそう思いませんか？

私もスタッフに守られている一人で周囲に感謝しながら日々診療しています。

JCAの取組

JCHO 認定キャリアアドバイザー

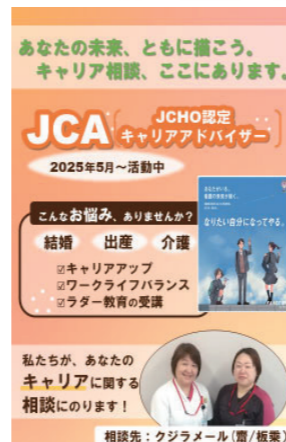
仙台病院 看護部 看護師長 **板乗 亜矢**
看護師 **齋 育子**



2024年度、JCHO認定キャリアアドバイザー研修を受講し、活動を開始しました。

2025度は、当院の離職と定着率の動向を見据え、キャリア分岐点への支援活動を行っています。対象職員を設定し、通常相談と併せて52名の面談を実施しました。

面談を通じて見えてきた課題をキャリア支援委員会と共有し、キャリア支援が個人と組織の共生のための橋渡しに繋がるように歩みたいと思います。院内JCA制度を整備しながら、相談者がライフキャリアプランの構築ができるように伴走していきたいと思えます。



2025度訪問看護ステーション管理者会議を開催しました!!

地域包括ケア

本部医療部サービス推進課

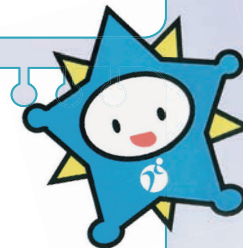
地域包括ケア推進係長

齋藤 陽子



2024年度、各事業所で地域分析や自事業所の強み・弱みを整理し、中長期的な経営目標を掲げました。2025年度は、その目標に対して取り組んできた内容を各グループ内で共有し、更なる経営改善に向けて意見交換を行いました。また、将来を見据え、精神科や小児の訪問看護の実践について、事例発表・グループや全体での意見交換を通し、「様々な患者の在宅を支えるための体制作り」を考える機会となりました。

「どんな患者でも受け入れる訪問看護を目指す!」という熱い思いを持ち帰り、これからもJCHOの訪問看護は、笑顔を絶やさず、地域の医療を支える要として邁進してまいります!!



JCHOで 育成する 総合診療医

札幌北辰病院総合診療科の取り組み

札幌北辰病院総合診療科
診療部長

若林 崇雄

私たちは札幌で病院総合診療に取り組んでいます。通常の入院・外来に加え、平日日中の救急対応、また訪問診療を実践しています。

また札幌大・北大より学生を受け入れ、実習と子ども食堂でのボランティア活動を行っています。独自の専攻医プログラムを有し、札幌からの引越なしで完結するよう配慮しています。今年は総合診療科専門医を1名輩出! 皆さんも興味があればぜひ見学にいらっやってください。



石川県知事から、JCHO に感謝状

令和6年能登半島地震・令和6年奥能登豪雨

令和6年能登半島地震・令和6年奥能登豪雨において被災地の最前線で組織的に尽力したJCHOに対して、石川県知事から感謝状が贈呈されました。

2025年12月10日の贈呈式には、山本理事長の代理として、金沢病院 村本弘昭病院長が出席しました。

改めて、被災地医療支援活動に携わった多くのJCHO職員のみなさまに感謝申し上げます。

令和6年能登半島地震・令和6年奥能登豪雨 知事感謝状贈呈式



(馳 前石川県知事、金沢病院 村本病院長)

かえるチャレンジ 2025：参加病院一覧

- ・登別病院 ・秋田病院 ・二本松病院
- ・埼玉メディカルセンター ・千葉病院
- ・東京山手メディカルセンター
- ・三島総合病院 ・四日市羽津医療センター
- ・滋賀病院 ・京都鞍馬口医療センター
- ・星ヶ丘医療センター ・大和郡山病院
- ・玉造病院 ・宇和島病院 ・徳山中央病院
- ・佐賀中部病院 ・松浦中央病院
- ・熊本総合病院 ・人吉医療センター
- ・天草中央総合病院 ・南海医療センター
- ・宮崎江南病院

(全 22 病院、27 チーム)

かえるチャレンジ2026

今年も **かえる** チャンス到来！



独立行政法人
地域医療機能推進機構
JCHO Japan Community Healthcare Organization



本部

〒108-8583 東京都港区高輪3-22-12 ☎ 03-5791-8220
<https://www.jcho.go.jp>



NOW!



JCHOは、これからも地域と共に、皆さまと一緒に歩み続けます！